

文献<sup>\*1</sup>はこの分野で最も広く読まれている基礎文献であり，大学院に入学するまでに必読である<sup>\*2</sup>．特に平安時代の文化との関わり<sup>\*3</sup>，英語と日本語の言語学的関連からの考察<sup>\*4</sup>は興味深い．また，文献<sup>\*5</sup>は新たな分野を拓いた最初の論文であり，当初の問題意識を知るうえで重要である．

## 参考文献

B. フー, Q. バズ, C. クー. *foobar* の誕生. Translated by 保毛太郎. 民明書房, 1995.

Foo, Bar, Qux Baz, and Corge Quux. “The birth of foobar.” *J. Foobar* 255 (1990): 19–454.

保毛太郎. “ほげと千年紀—foobar の視点から—.” ほげ学会論文誌 100 (2000): 20–42.

保毛太郎, 比世次郎, 布我三郎. “ほげとびよの意味論.” ほげ学会論文誌 101 (2001): 53–58.

---

\*1. 保毛太郎, “ほげと千年紀—foobar の視点から—,” ほげ学会論文誌 100 (2000): 20–42; Bar Foo, Qux Baz, and Corge Quux, “The birth of foobar,” *J. Foobar* 255 (1990): 19–454.

\*2. Foo, Baz, and Quux, “The birth of foobar” は長大な論文であり, 和訳が単行本で出ている: B. フー, Q. バズ, C. クー, *foobar* の誕生, trans. 保毛太郎 (民明書房, 1995).

\*3. 保毛, “ほげと千年紀—foobar の視点から—,” 25.

\*4. 同書, 30–35.

\*5. 保毛太郎, 比世次郎, 布我三郎, “ほげとびよの意味論,” ほげ学会論文誌 101 (2001): 53–58.